



1 成岡田神楽は、田河津村の竹沢神楽（現在は廃絶）から伝承された。その踊りには、激しさの中に独特な古い型が残っている 2 代々受け継がれている鳥かぶとには、ネズミや鶴などの動物が一つ一つ描かれている 3 毎年9月8日には地元・久須志神社の例祭で住民に見守られる中、御神楽が奉納される 4 昭和43年、日比谷公会堂で行われた「アジア友の会」での演舞の様子。このほか鎌倉・鶴岡八幡宮など全国各地でその勇壮な舞いを披露している（写真は成岡田神楽保存会より提供）



地域住民の生活の一部として、100年以上の歴史を刻んできた成岡田神楽。この先も東稲山の大樹と共に年輪を刻み、演目という青々とした枝葉には未来より希望の陽光が差し込む。

前沢東部に位置する生母成岡田地域。成岡田神楽は、東稲山麓北西のこの地で伝統の舞いを受け継いできた。成岡田神楽は明治43（1910）年、農村の共同娯楽を目的に、当時の東磐井郡田河津村竹沢神楽から初代千葉捨吉が伝授されたことを起源とする。昭和40年代に最盛期を迎える中、指導者の逝去により断絶を余儀なくされた。その後、有志の熱心な復興活動や子ども神楽活動で再興を果たし、今日に至る。昭和56（1981）年に旧前沢町無形民俗文化財に指定。現在は「御神楽」や「三番叟」などの六演目を継承する。同保存会の千葉守会長は、「後継者を育成し、絶やすことなく継承していきたい」と将来を語った。

成岡田神楽

前沢生母

（市指定無形民俗文化財）

奥州遺産

—— ときを越え 受け継がれるもの ——

第121回

広告